

No. 7【2012年5月18日配信】

青森の「老舗」(担当:工藤)

こんにちは！ 事務長の工藤大輔です。

昨年の9月4日付の『東奥日報』紙に、青森の老舗（1912年以前に創業した事業所）に関する記事が載っていました。これによれば、青森県内の老舗は235あって、このうち江戸時代に創業したのは15とあります。

では、青森市内に老舗はいくつあるでしょう…ちょっと想像してみてください。

実は、青森市には63の事業所がありました。

どうでしょう、多いですか？少ないですか？

このうち、3つが江戸時代（ここでは1867年以前とします）の創業です。

ダントツに古いのが、浅虫の温泉旅館「椿館」で、貞享4年(1687)の創業です。

つぎが、元文5年(1740)創業の南薬局です。藩政時代の記録を読んでいると、南^{みな}了^{みり}益^{りょう}えき^{えき}という名前をよくみかけます。そして、万延元年(1860)に弘前松森町の^{いっぴょう}一瓢^{しゃはん}舎半升^{しんしょう}という人物が著



椿館

した旅行小説『御国巡覧滑稽嘘盡戯』^{おくにじゅんらんこっけいしつつきげ}では、青森名物の第1番目に「米町南氏の元応丸」と、「元応丸」という薬をあげています。

なお、この『御国巡覧滑稽嘘盡戯』については、先般刊行した『新青森市史』通史編第2巻近世692～705ページで詳しく取り上げていますので、是非ご覧ください。



武内製飴店

そして、3つめが、文久2年(1862)創業の「武内製飴所」です。「津軽飴」などが有名ですね。当時、青森町には37軒の飴屋さんがありました。そのうちの1軒が、こうして現在も営業を続けているなんて嬉しくなりますね。

機会がありましたら、今回紹介できなかった「老舗」についても紹介したいと思います。